

～ ごあいさつ ～



センター長 木村 浩二

日頃より、ご利用者ご家族をはじめ、関係者の皆様、地域の皆様には、友愛デイサービスセンターの事業運営に温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私たちは、法人の掲げる「感じる・創る・繋がる」の理念に基づき、相手の立場に立ってその思いに共感する感性を第一義にするとともに、職員一人ひとりが洞察力、想像力、行動力を駆使して、ご利用者の自己実現を支援し、質の高いサービスの提供に努めております。顧客意識を主体とする丁寧な接遇マナーはその

一環であり、「言葉遣いは心の鏡、接遇は組織の鏡」と言われるように、日常の何気ない会話や関わりの中でも、ご利用者の尊厳に配慮することを大切にしております。

これからも多くの方々を支えられていることを忘れずに、利用してよかったと思っただけの施設、地域社会から信頼を得てその期待に応える施設を目指し、職員一丸となって取り組んでまいります。引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

1 指定生活介護事業（通所）

定員 20名

対象 主に身体障害者(18歳以上)

重症心身障害者・要医療的ケア者受入施設

2 指定短期入所事業（宿泊）

定員 3名

対象 主に身体障害児/者

重症心身障害児者受入施設

地域生活支援拠点等事業所登録施設

目次

ごあいさつ.....	01
友愛デイサービスセンター概要.....	02
各種支援.....	03～04
令和5年度事業計画.....	05～06
利用者コラム.....	07～08
フォトギャラリー.....	09～10
社会で支える子育てを願う.....	11～12
職員特集.....	13～14
職員紹介.....	15～16
短期入所コラム.....	17～18



各種支援

介護

自分らしく、心地よくいられること

- 日々の支援の中で5つのことを大切にしています。
- 1 安心・安全であること。
 - 2 ご利用者の尊厳に配慮すること。
 - 3 ご利用者の「こう動きたい・こう動きたくない」という思いに寄り添うこと。
 - 4 ご利用者が持つ様々な能力を活かし、機能の維持・向上に努めること。
 - 5 職員全員が、ご利用者をしっかり観察すること。

刻一刻と変化のご利用者の状況に合わせた、適切な介護支援の提供に努めています。



医療

安心して、健やかな日々を紡ぐこと

安心して健やかな通所生活を送っていただくため、きめ細やかな関わりに努めています。ご家族や主治医からの情報・検査報告を把握し、通所当日のケアや変化について予測しています。また、嘱託医の助言もご家族へしっかりと伝達し、関係者が連携して健康維持に努めています。

日々の支援では、ご利用者の変化に対応すべく、職員間で情報や新たな知識を共有しています。

ご利用者の緊急時には、速やかにご家族へ連絡し、受診や必要な処置、送迎に関する調整など、管理職とともに対応しています。

医務として特に大切にしていることは、単に医療的ケアや処置を行うのではなく、ご利用者の特性を踏まえた声掛けやケア方法の実践、個別性を重視した関わりです。心身の変調に対する速やかな支援に活かすため、様々な方法でコミュニケーションを図っています。



活動

楽しく、豊かな生活を送ること

ご利用者が誰でも楽しく、豊かに過ごせるように、様々な活動を提供しています。

現在、主に提供している活動は、各種訓練・クラフト・スヌーズレン・アロママッサージ・足浴・レクリエーションですが、7月には音楽活動も再開しました。

様々な活動を通じて、心身の機能が向上する・新たな能力や適性が見つかる・社会性が育まれるなど、ご利用者によって様々な可能性が広がります。

また、共に活動の時間を過ごすことで、ご利用者同士や職員との絆や連帯感も深まっています。

七夕会・ハロウィン・お楽しみ会など、季節ごとのイベントも好評で、ご利用者も楽しく参加されています。

にぎやかに、楽しく、時には真剣に。

今日もご利用者と楽しい時間を過ごしています。



栄養

安全で、美味しい食事を楽しむこと

「衣・食・住」という言葉通り、食事は生活の中で欠かすことのできない、重要な要素です。

友愛デイサービスセンターでは、障害者施設担当の栄養士や、調理業務を委託している日清医療食品株式会社と協力し、美味しく、食べやすく、栄養バランスに配慮した食事を提供しています。

また、ご利用者に食事を快適に食べていただくためには、職員の食事介助の技術も大切です。

嚥下及び咀嚼機能・ひと口量・ペース・嗜好・食べやすい温度・適切な声掛けや関わりなどが異なることに加え、体調の変化によって配慮すべき点が変わるご利用者も多いため、状況に応じた適切な食事介助を心がけています。

職員がご利用者の「こうやって食べたい!」という思いを正確に受け止め、メニューや支援という形に繋がられるよう、日々努力を積み重ねています。



生活介護事業

1 介護・日中活動

- ① 日中活動は現在のプログラムを継続しながら、音楽活動や外出活動を再開します。
- ② 世田谷区より招聘した理学療法士や言語聴覚士と連携し、高質な訓練活動や介護支援の提供に繋がります。また、療法士とご家族が懇談する機会を設けます。
- ③ ご利用者に適した介護用品やその使用方法をご家族に助言します。また、ご利用者の機能維持・向上を目的とした、介護用品や食器類の購入を検討します。
- ④ ご利用者の特性や嗜好に合わせた装飾・玩具・音楽等を活用し、ご利用者が楽しく活動的に過ごせる環境を整備します。



2 健康管理・医療的ケア

- ① ご利用者の健康情報をご家族と共有し、適切なケアや健康指導を実施します。
- ② ご利用者の口腔の機能低下や環境悪化を予防するため、看護師が口腔ケアに関する外部研修を受講し、学び得た知識を職員へ伝達します。
- ③ 感染症対策委員会を定期的に開催するとともに、感染症予防等に関する研修を実施します。
- ④ ご利用者ごとの「医療的ケア実施マニュアル」を整備し、より高質な医療的ケアを提供します。
- ⑤ 施設内外において高まる医療的ケアへのニーズに対応するために、非医療従事者による喀痰吸引等の特定行為業務認定従業者を追加登録します。



3 新型コロナウイルス対策

- ① 新型コロナウイルス感染症を予防するため、三密(密集・密接・密閉)を可能な限り回避します。また、新型コロナウイルス感染症に有効とされるアルコール消毒液や次亜塩素酸ナトリウム溶液にて、各種物品や設備の消毒を継続します。
- ② 東京都が実施する抗原定性検査(東京都集中的検査)の受検や新型コロナウイルス対応手順マニュアルの更新を継続します。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の疑似症状を発症したご利用者については、原則として隔離や早退などの対応を継続します。



4 個別支援計画の充実

- ① 効果的な個別支援計画を策定するために、サービス管理責任者が外部研修や各種専門書などから最新の相談援助技術や知識を習得します。
- ② 必要に応じて家庭訪問・施設見学の同行などを支援する際は、社会資源との連携を実施し、ご利用者とご家族が豊かな地域生活を維持できるようにします。
- ③ ご利用者の急激な状況変化に対応するため、職員間にてご利用者情報や支援方針を適宜共有し、支援を効果的かつ準準的に提供します。



5 ICT化

- ① 令和4年度に導入した業務ソフトについて、本格的な運用を開始します。
- ② ご家族との連携や意見交換を効率的かつ円滑に実施するため、新たなコミュニケーションツールを導入します。



6 人材育成

- ① 「ISO 9001:2015 内部監査員養成研修」の受講を推進します。
- ② サービス管理責任者による内部研修を実施し、全職員の支援力強化を推進します。
- ③ 外部研修の積極的な受講を推進するとともに、職員が講師となる内部研修を各半年1回実施します。また、法人主催の研究事例発表会へ参加し、職員の力量や組織全体のサービス向上を図ります。
- ④ 様々な分野から実習生を受け入れ、地域交流と福祉人材の育成に貢献します。
- ⑤ 行政関係の各種手続きや事業計画及び事業報告の策定方法などを管理職から一般職員へ伝達します。

短期入所事業

1 経営の安定化

- ① 家族懇談会を開催し、ご利用者及びご家族の要望などを的確に抽出することにより、サービスのさらなる向上を推進します。
- ② 人材育成やサービス向上などについて、定例会議で業務委託事業者と協議し、迅速に対応します。
- ③ ヒヤリハットや不適合サービスは、業務委託事業者と連携し、早期に改善します。また、原因分析や是正処置については、業務委託事業者に概ね一週間以内に事故報告書の提出を義務付けるとともに、当センターにおいても処置内容を精査することにより、効果的かつ根本的な改善につなげます。



2 緊急受入の推進

令和5年1月に、世田谷区地域生活支援拠点等の機能を担う事業所として登録しました。今後、過去の利用実績にかかわらず緊急を要するご利用者の積極的な受け入れを推進し、社会的責任を果たします。



利用者コラム

友愛デイサービスセンターの生活介護事業では、医療的ケアを必要とする多くのご利用者を受け入れております。当初は医療的ケアを必要としなくても、年齢を重ねごとに身体機能が低下し、医療的ケアが必要となったご利用者も少なくありません。

今年5月に、ご利用者の速水雅子さんが、新たに胃瘻を増設されましたので、長年にわたり雅子さんを支えられているお母様の葉子さんに、お話を伺いました。



主任サービス管理責任者
荒井 広祐

Q1. 雅子さんとのこれまでの生活を振り返って

これまで、いろいろな人が支えてくれたおかげで、雅子を育てて来られたと感じています。夫は本当に子煩悩で、育児にとっても協力的な人でした。雅子は昔からお風呂が大好きだったので、そんな本人を夫は毎日お風呂に入れてくれました。でも、夫は雅子が9歳の時に亡くなってしまい、私自身も途方に暮れてしまいました。

それまで私は「仕事をしながら雅子を育てていこう」と思っていたのですが、それは夫がいてくれたから…。その後、一人親となって意識していたことは、雅子を「地域の子」として育てるということでした。地域の方々・近所の方々と繋がっていることは、とても重要だと感じています。

以前、地域の方と話をしていたとき、「雅子は歌が好きなんです」と伝えたところ、ある女性の方が、「じゃあ、私は歌のおばさんで行きますよ。」と、雅子に歌を歌いに来てくださって、雅子もとても喜んでいたことをよく覚えています。

また、私自身の中も開かれ、常に風通しを良くしていきたいと思います。昔、雅子は肺炎による入院を繰り返していましたが、ある日、自分が手探りで行ってた足湯を、看護師さんに教えてもらったことがあるんです。そこで、「冷やさない、適切な体温調節の方法」を知りました。すると、本人の状態が明らかに改善したんです。そのときに、「自分で勉強することもあるけれど、それ以上に他者から教えてもらうことは多い。本人を守るためにも、教えてもらわなきゃ。」と感じました。

今でも自分だけでは掴めないような新しい情報を、ヘルパーさんから学ぶことがあります。ケア自体も、自分がベストだと思っただけではいけないと思います。新たなテクニックを知れば、どんどん本人へのケアをバージョンアップできます。それに、全部一人でやろうとしても、いろいろな面でケアの質が落ちてしまいます。



お父様と雅子さん

私は昼間に仕事をしているので、本人の眠る頃に眠くなってしまい、気が付いたときには本人の状態が悪くなっていることもあります。本人に何かあったときには、自分を責めてしまうんです。また、自分のスイッチが常にある状態が続くと、身体より先に心がやられてしまう。本人を守るために、自分がオフになる日は絶対に必要です。だからこそ、様々な人達に助けをもらいながら、私達の生活のクオリティを守っていくことが、雅子を守ることに繋がると感じています。今では、困ったときに、「困ってます。助けて下さい。」と発信してきたことが、本人にとっても良かったんだと思っています。今の親御さんにも、伝えたいですね。



プールを楽しむ雅子さん

そして、雅子も私も加齢に伴い衰えていくので、子どもが求めるケアと親が提供できるケアの量は反比例します。だから、人間関係や社会資源を開発することも重要だと思います。

また、今は社会にいろいろな情報が溢れており、YouTube などでも容易に情報を得られるようになりました。今でこそ一般的な「放課後等デイサービス」も、雅子が学生の頃には夢のような話でした。でも、今の親御さんは、18歳以



雅子さんと葉子さん

降に利用できるサービスが、急に少なくなると感じられるのではないのでしょうか。学校もあって、放課後等デイサービスも利用しているとなると、その後のサービスにとってもギャップを感じると思います。それは家庭全体のライフスタイルにも影響してくると思います。国にはもう少し実態を踏まえ、施策を考えてほしいというのが、少し上の世代の母親としての意見です。



雅子さんを見守る葉子さん

Q2. 医療的ケアが必要となる前後の変化について

本人が成長して、健康のピークは10代後半～20代前半でした。20代後半になって、1年に1回は入院するようになりました。毎年課題が1つずつ増えていくような感じで、ただでさえ苦手だった体温調節も、どんどん不得手になってきました。そんな折、医師から「元気なうちに」と勧められ、今年の5月に胃瘻を増設しました。医療的ケアが必要となったことで一番困ったことは、医療的ケアとなった雅子を受け入れてくれる短期入所施設が少ないこと、今まで慣れていた短期入所施設を利用できなくなったことで、私にとって大きなダメージでした。逆に胃瘻となって良かったことは、雅子が経口摂取できないときに、しっかり栄養・水分補給ができること。雅子は6月にも入院しましたが、経口摂取できない期間も長かったので、胃瘻を増設していなかったらもっと回復が遅れていたと思います。これからも本人の状態を鑑みながら上手に胃瘻を活用することで、体調の安定に繋がってやすくなったことはとても大きなメリットです。今はまだ胃瘻の増設から日が浅く、ケアを模索している段階なので、「入浴したときはどうかな」「食べられたかな」「安定するかな」という緊張感がありますが、本人のために何とか頑張っていきたいと思っています。

Q3. これからの雅子さんへの想い

加齢に伴って雅子の機能も衰えてくるので、やれることもどんどん限られてくると思います。だからと言って家にずっといれば良いわけではなく、外に行き、いっぱい楽しい刺激を受けて、豊かに過ごして欲しいと思います。まだ自分が動けるうちに、これから衰えていく雅子でも楽しめる場所を作りたいと思っています。地域や楽しいことと繋がりがながら、雅子と一緒に過ごしていきたい。一番は安全・安心ですが、雅子は人との関わりも好きだから、それだけでは物足りない。たまよんガーデン・コミュニティ※も、そんな思いで作っています。

Q4. 我が子を預ける母として、友愛デイはどんな場所ですか

とても大切な場所で、なくてはならない存在です。雅子のような人たちは、どこでも受け入れられるわけではありません。そんな中で、本人の変化を適切にとらえ、どのように乗り切っていくかを色々な立場から助言してくれる。いつも私と一緒に雅子のことを考えて助けてくれる、本当にありがたい存在だと思っています。

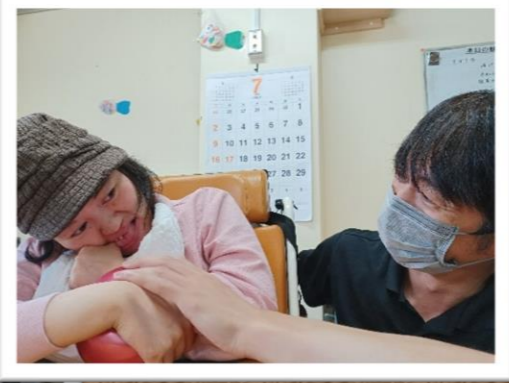
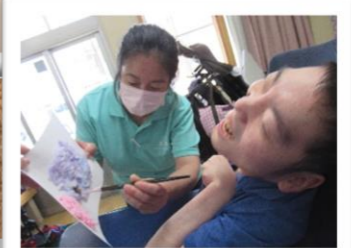
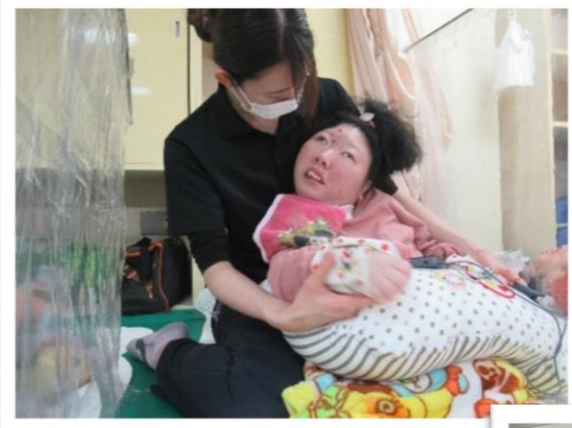


雅子さんと葉子さんにたくさんの幸せが訪れますように

※たまよんガーデン・コミュニティ

ご利用者のくつろぎの空間でありながら地域の方々との交流も大切に、医療的ケアの対応も含む重症心身障害者のためのシェアハウスです。 ホームページ <https://tamayon.com>

笑顔があふれる
フォトギャラリー



社会で支える子育てを願う



センター長 木村 浩二

新型コロナウイルス感染症も、感染症法上の位置づけが 2 類から季節性インフルエンザと同じ 5 類に引き下げられ、脱コロナが進んでいます。誰もが願うコロナ禍前の日常にやっと戻りつつありますが、厚生労働省の発生動向によると、定点把握の始まった 5 月 8 日以降 1 週間(第 19 週)の全国平均感染者数は 2.63 人、7 月 10 日からの第 28 週には 11.04 人と増加しており、感染者の報告数を見ると、第 19 週は 12,922 人でしたが、第 28 週には 54,150 人と 4.2 倍になっています。

国内の累計感染者数が 33 百万人にも及ぶ禍中でも、当センターでは、集団感染などの深刻な状況に至ることなく今日を迎えています。これもひとえにご利用者やご家族をはじめ感染防止にご協力いただいた皆様のおかげであり、心より感謝申し上げますとともに、感染予防対策に日々奮闘している職員に、労いと謝意を表したいと思えます。

感染症法上の分類が引き下げられたとはいえ、感染力は強力で病態も解明できていないことが多く、インフルエンザと同じように考えるのは危険であると指摘する専門家もいます。未だに有効な治療法もない後遺症も含め、万一、感染すれば重篤化する恐れのあるご利用者を守るため、当センターでは行政の推奨する方針に従いながら、従来の感染予防対策を継続してまいります。皆様にはご不便をおかけいたしますが、今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、障害者虐待防止法や障害者差別解消法が公布されて、早いもので 10 年以上が経ちました。法の目的でもある障害者の権利や利益の擁護、さらには障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現は、どれほど進んだのでしょうか。3 月に厚生労働省が公表した 2021 年度の障害者虐待状況によると、虐待を受けた障害者は、過去最多の 2,960 人にのぼっています。但し、これはあくまでも法の適用対象とする養護者・使用者・福祉施設等職員による虐待を集計した結果であり、適用対象から除外され自主的な防止措置に留められている医療機関等を含めれば、その数は大きく増えるものと思われる。

そんな状況を裏付けるかのように、虐待や差別など人権侵害に関わる事件が後を絶ちません。八王子市の精神科病院で、看護師らが入院患者に対し日常的に暴行や虐待を繰り返し、5 人が立件されたとか、府中市にある社会福祉法人では、市職員 OB の元副理事長が、10 年にわたり知的障害者の利用者らに虐待を繰り返し、市も多数の内部告発や通報を受けながら、虐待を認定していなかったとか、信じられないようなことが起きています。心無い人々の悪意に満ちた言動は、まさに犯罪であり許されるものではありませんが、行政の不作为が垣間見えることも残念でなりません。名古屋城天守閣の復元計画に関する市民討論会では、最上階まで昇降機の設置を求めた車いす利用者に対し、一部の参加者が「お前が我慢せえ」「罔々しい」などと罵声を浴びせ、場内ではその声に賛同する拍手も起きたといえます。このような障害者を差別する不適切な発言に対して、参加していた市の職員が制止しなかったことも問題視されていますが、相手の立場に配慮することなく「障害者は控えめにしていなさい」と言わんばかりに毒づいた「お前が我慢せえ」の言葉、これこそが、社会に根深く残る差別や偏見の象徴そのものであると強く感じます。

昨年末には、障害者支援のあり方を問うニュースも報道されました。北海道にある知的障害者のグループホームで、入居者が結婚や同居を望んだ場合、不妊の手術や処置を条件づけて、これまでに 8 組 16 人が応じていたというのです。グループホーム側は「障害者同士の自由な付き合いを尊重しつつ、現実にはさまざまな障壁があるため、そのことを真摯に家族や本人に説明するのがわれわれの責務である。その説明

の中で、子どもを望まないのであれば、こういう方法があると不妊処置を提案してきた。本人の意向に反して強制したことはない」と話しています。グループホーム側も、地域福祉を担う立場から、育児に立ちあがる困難や当事者と生まれ来る子供の幸せを慮り、多くの葛藤を抱えたことは想像できます。言い分があることもわかります。それでも、子どもを産み育てるかどうかを自分で決める権利は尊重されるべきであり、障害者であることを理由に不妊手術や処置を提案したことは、倫理的にも非難されて当然であると思えます。そもそもグループホームは、単身での生活が難しく、一定の支援を受けながら地域生活を希望する人が利用するサービスです。グループホームの支援がなければ生活できない人たちに対し、「子どもを産むなら支援はしない」と言っているようなもので、当事者に選択の余地はないのです。

現在の日本では、子育ての責任をすべて親に負わせていることから、結婚・出産・子育ては自立した人にものみ許されるという社会通念があることは否定できません。この通念が、障害者にとって子どもを持つことの難しい状況を作り出し、子供の将来を最大に考えるという道理を歪め、障害者の男女交際すら抑制するという愚鈍で不遜な考えに至らしめる不安を感じています。

現行の制度においても、グループホームでの育児は想定されておらず、当事者が結婚や出産を望む場合は、施設側の自主的な取り組みに委ねられます。しかしながら、職員体制や育児に適した生活環境、当事者の生活費などを考えると、グループホームでの子育て支援は、かなりハードルが高いと思います。まして「子育ては 24 時間 365 日休みなし」とも言われるように大変な労力を要する営為であり、単純にグループホーム側の非倫理性を責め立てて済むような問題ではありません。そもそも一施設の使命感や善意で対応できるものではなく、社会全体で支援するような新たな制度設計に及ばなければ、対応できないことは明らかです。

憲法第 13 条には、「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」と定められています。子育てとは本来、子どもに限りない愛情を注ぎ、その存在に感謝し、親も親として成長していくという大きな喜びや生きがいをもたらす尊い営みです。その喜びや幸せを追求する権利は、障害の有無に関係なく誰もが有する権利です。もちろん、生む権利を選べば育てる義務が生じ、それを全うする責任が伴うことも障害の有無に関係ありません。であるならば、障害者であってもその責任を全うし、子育ての権利を享受できるような支援を欠かしてはならないはずで

戦後最大の人権侵害と言われた旧優生保護法の過ちを国は認めました。障害者の強制不妊手術の裁判も起きています。差別や偏見による受胎調節の過ちなどを絶対に犯さないためにも、障害者は子育てなどできないと決めつける前に、社会全体で子育てを支える術を考えることが必要であると強く感じます。それは健常者にとっても子育てしやすい社会に繋がることは間違いありません。

この 4 月にはこども家庭庁が創設され、こども基本法も施行されました。現政権も、異次元の少子化対策を掲げています。「異次元」と称し、これまでとは全く違った斬新で大胆な発想の施策を強調するのであれば、今回のグループホームの問題により社会の関心が高まった今こそ、「愛する人と一緒に暮らし、子どもを産み、家族をつくる」という、人として希求する当然の思いに真剣に向き合った、障害者施策の見直しを期待してやみません。

共に生きる

感じる

創る

つながる

ご利用者が、大好きです。



友愛デイサービスセンターに入職してから、今年の7月で1年と4か月になります。

私が入職した際の友愛デイサービスセンターに対する印象は、とにかく明るく、笑顔の多い施設だと感じました。また、先輩方はとても機敏でいて、かつご利用者への対応も丁寧にされており、とても驚きました。

「自分も先輩方のように、ご利用者の役に立てる職員になれば」と、ご利用者の介護や活動の提供方法を覚えるため、必死に頑張ったことを覚えています。

しかし、当時は様々な場面においてご利用者と息が合わず、良質なサービスを提供できていなかったように思います。

当時の私は、表面上の「適切な提供方法」ばかりを考えてしまうあまりに、ご利用者の想いを汲み取ることを疎かにしてしまっており、それが自分本位の支援を生み、一層ご利用者と心を通わせられない状況への焦りばかりが募るといって、悪循環に陥っていました。

そんなとき、先輩方と自分の違いについて考えてみるようになりました。

先輩方は、介護や活動などのサービスを提供する時以外でも、ご利用者と積極に関わりながら様々な気持ちや想いを交錯させることで、ご利用者との間に確かな信頼関係が構築されていました。

一方、私はサービスを提供するときには、ご利用者と積極的に関わりますが、それ以外の場面ではご利用者との関わりが少なく、一番大切なご利用者との信頼関係が築けていないことに気が付きました。

その後は、それまで以上にご利用者と積極に関わり、「ご利用者が何を思っているのか。」ということを常に考えるようになりました。また、自分の正しさばかりを押し付けるのではなく、ご利用者本位であり続けるよう心がけました。

それから少しずつではありますが、ご利用者が何を伝えたいのかが、理解できるようになってきたと感じています。

ご利用者の想いに寄り添うことができたときには、ご利用者が笑顔になってくださいます。そして、その笑顔が、私の「もっともっとご利用者に喜んでほしい」という想いに繋がっています。今では、ご利用者と様々な関わりを持ち、一緒に時間を過ごすことが楽しくて仕方ありません。

また、最近ではご家族とお会いした際にお声をかけていただくことが増え、とても嬉しく思っています。

ですが、私にはまだまだ至らない所が沢山あります。

更なる介護技術やご利用者理解の向上はもちろんのこと、事務仕事では、適切な言葉で的確に事実を伝えることの難しさを日々感じています。

それでも、センター長をはじめとする先輩方に指導を受けることにより、少しずつではありますが、成長できているという実感があります。

…今日よりも明日、明日よりも明後日…もっと、大好きなご利用者や先輩方の役に立つ職員になれるよう、精一杯頑張っています。



ご利用者が、健康で、楽しく、自分らしく、

「ずっと大切だと考えていること」

生活していけますように。

友愛デイサービスセンターにおける看護師の役割は、バイタルサインチェック・医療的ケアの提供・発作や体調不良時の対応・姿勢管理など、ご利用者の日常生活支援が大きな割合を占めています。

また、こうした支援を提供するにあたっては、ご利用者の体調変化を適切に察知し、骨折や肺炎などのリスクを回避するなど、細心の注意を払う必要があります。医師が常駐していない施設の看護師として、ご利用者の生活と生命を支えることの難しさを、日々痛感しています。

その中で、私がお利用者支援において最も大切にしていることは、「ご利用者の生活全体(人生)を支援する。」ということです。

ご利用者は、当センターのような施設のみならず、様々な環境や人々の中で生活をされています。漫然と一つの手技を行使するだけでなく、ご利用者の生活全体や先の人生も見据えながら、「ご利用者がひとりの人として、どのように人生を歩みたいのか。」ということを考えて支援を提供するよう、心がけています。



また、こうした考えを実践につなげるためには、看護支援のみならず、移乗・更衣・排泄・入浴・食事などの介護支援や、様々な社会資源との連携をも含めた相談支援など、様々な支援を通じてより多くの気づきを得ることにより、ご利用者への理解を深めて続けることも重要だと考えています。

しかしながら、この数年は新型コロナウイルスの影響により、ご家族との対面方式での面会や社会資源との連携にも、制限が生じました。これは私達にとって、ご利用者の人生を知る機会を大きく制限されたことと同じです。

「過去、ご利用者はどのようにご家族や周囲の人と生きてきたのか。」

「現在、ご利用者はどのように生きているのか。」

「未来、ご利用者はどのように生きていきたいのか。」

これらは、電話越しで話を聞く・ご利用者に関する書類を見るだけでは、感じる事が難しい部分です。

ご利用者の歴史を丁寧に紐解きながら、これまでご利用者に関わってきた人々の想い・工夫・悩みなどを知ることによって、当センターにおける支援を継続的に改善することのみならず、ご利用者に適した社会資源を導入するなどの様々な手がかりや可能性へと繋がります。

今後も、様々な人々と繋がりながら自分自身の支援力を高め、ご利用者が自分らしく生き続けられるような工夫を積み重ねます。

そして当センターが、ご利用者の未来への道しるべのような存在となれるよう、尽力してまいります。




職員紹介 2023

職員・ボランティアさんに
質問しました！

質問項目は
こちら！

- ① 名前 / 職種
- ② 星座
- ③ 行きたい旅先
- ④ 友愛デイを一言で表すと…
- ⑤ 挑戦したいこと
- ⑥ デイでの思い出
デイへの意気込み（新規職員）

- 
- ① 木村 浩二
センター長
 - ② うお座
 - ③ イスラエル
 - ④ 戮力協心
 - ⑤ 現在住まう地域に貢献すること
 - ⑥ 友愛デイサービスセンターに異動してから毎日ご利用者に癒されてきたこと。


- 
- ① 陸田 光昭
部長
 - ② みずがめ座
 - ③ 箱根
(貸露天・部屋食)
 - ④ 楽園
 - ⑤ そば・うどん打ち
 - ⑥ まだ分からないことも多いですが、一生懸命頑張ります。理念の通り、ご利用者、ご家族、地域、一緒に働く仲間と「共に生きる」ためにはどうすべきかいつも考えます。


- 
- ① 青木 美早起
生活支援員
 - ② かに座
 - ③ 波照間島
 - ④ 明るい！
 - ⑤ ネイルの勉強
 - ⑥ ご利用者や職員と過ごす毎日


- 
- ① 亀本 梓
生活支援員
 - ② おうし座
 - ③ 和歌山県
 - ④ 優しさの塊
 - ⑤ 手の込んだ料理
 - ⑥ 入社して初めてのハロウィン衝撃でした。

- 
- ① 生富 英美
看護師
 - ② おひつじ座
 - ③ 南国
 - ④ 明るく優しい
 - ⑤ 分からないこと、出来ないことがないようにしたい
 - ⑥ 皆さんと仲良くなる

- 
- ① 山川 敏江
ボランティア
 - ② やぎ座
 - ③ 北海道
 - ④ 楽しいデイサービスセンター
 - ⑤ 洋食を作りたい
 - ⑥ ご利用者の皆さんが食事を終えた後に笑顔を見れた時


- 
- ① 武者 愛里
生活支援員
 - ② かに座
 - ③ サバンナ
 - ④ アットホーム
 - ⑤ 英語が話せるようになりたい
 - ⑥ 産休に入る時、当時のご利用者の皆さんや職員が暖かい言葉をかけて送り出してくれたことが素敵な思い出です。


- 
- ① 伊藤 順子
看護師
 - ② いて座
 - ③ 濟州（チェジュ）島
 - ④ アットホームでピュア
 - ⑤ 1人で韓国に1ヶ月滞在する
 - ⑥ 皆さまと仲良くなる


- 
- ① 荒井 広祐
主任サービス管理
責任者
 - ② うお座
 - ③ 近くの公園でも良いのでご利用者と外出したい。
 - ④ 笑顔の絶えないあたたかな場所
 - ⑤ 介護・相談等の最新技術・知識を学び、より良いサービスを提供したい。
 - ⑥ ご利用者とのふれあう瞬間、全てがかけがえのない思い出です。


- 
- ① 菅 貴慶
生活支援員
 - ② てんびん座
 - ③ 北海道
 - ④ ご利用者の笑顔
 - ⑤ 斧を使って薪割り
 - ⑥ ハロウィンで女装。初めての経験でした。

- 
- ① 岸井 豊子
ボランティア
 - ② うお座
 - ③ 奥入瀬溪流（青森）
 - ④ やさしさ
 - ⑤ 英語の復習
 - ⑥ お楽しみ会


- 
- ① 斧 由紀子
副主任看護師
 - ② おとめ座
 - ③ 白神山地
 - ④ 職員が皆、ご利用者を大切に想っている場所
 - ⑤ 誰もが安心して訪れることのできるカフェをつくること
 - ⑥ ご利用者との過ごす日常の全て。特に誕生会は（通所を続けてくださることに感謝）感慨深いです。

- 
- ① 持永 修
生活支援員
 - ② さそり座
 - ③ 動物園
 - ④ 一言ではとてもとても
 - ⑤ 秘密
 - ⑥ デイに入職する前日に東日本大震災が起こり、2週間後からの勤務となった。

- 
- ① 谷口 裕太
ボランティア
 - ② いて座
 - ③ ロサンゼルス
大谷翔平選手を生で見たい
 - ④ 友と愛
 - ⑤ 地域支援事業を一から創り上げる。
 - ⑥ 限られた時間ですが、自分のご利用者・職員さんにとって少しでもプラスになればうれしい限りです。

- 
- ① 萬田 浩史
生活支援員
 - ② やぎ座
 - ③ 福島県
郡山市・いわき市・会津若松市
 - ④ YOU&I
(あなたがいるから私がいる)
 - ⑤ 健康な体を取り戻すこと
(高血圧・糖尿病を治すこと)
 - ⑥ 友愛デイで一緒に過ごした過去のご利用者や上司・同僚との思い出。

- 
- ① 西本 愛
看護師
 - ② やぎ座
 - ③ 日本全国
 - ④ 楽しい
 - ⑤ 内緒
 - ⑥ 毎日が思い出

- 
- ① 渋谷 峰子
事務員
 - ② しし座
 - ③ 屋久島
 - ④ 親切で優しい。いつもみんなに助けてもらっています。
 - ⑤ 日本の全部の県に行けたらな…(あと18)
 - ⑥ たまに訓練室でご利用と一緒に過ごす時間は、全部大切な思い出

短期入所コラム



主任サービス管理責任者
荒井 広祐

友愛デイサービスセンターの短期入所事業は、株式会社 HABING の協力を得て、運営しております。

これまでも顧客満足度調査等において、ご家族より「介護人さんがどんな方なのか知りたい」とのお声を頂戴しておりました。

そこで今回は、改めて株式会社 HABING の代表取締役社長である熊谷勇太さんにごあいさついただくとともに、長年にわたり短期入所事業を支えてくださっている、介護人の吉田敏子さんにお話を伺いました。

ごあいさつ

「選択肢と可能性を拡げる」私が起業する際に掲げた弊社の理念になります。事業を行っていくにあたりご利用者は勿論、そのご家族、そして支援にあたる従業員と家族。すべての方に対し、その理念に基づいた支援を提供していきたいと思っております。我々がどのようなケアやサービスを提供すれば、友愛デイサービスセンターの短期入所事業をご利用される皆様のご希望に沿うことができるのか、日々模索しながら進んでおります。

短期入所事業に協力させていただき、早いもので5年目を迎えました。「全ての想いに応えたい」その気持ちを常に持ちつつもできないこともあるかもしれません。歯がゆくも一步一步進み、皆様の一助になれるよう努力を重ねてまいります。

笑顔で、そして何事にも全力で理念を遂行できるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



株式会社 HABING
代表 熊谷 勇太さん

介護人紹介



介護人 吉田 敏子さん

Q1. 福祉の仕事をしたきっかけを教えてください。

20 年前に静岡で子育てをしていた時に、夜勤を募集している福祉事業所の広告を見たのがきっかけです。当時、昼間は育児をしていて、夜しか働けなかったのが「これは良い！」と思い、資格も何もなく飛び込みました。

昔、生まれ育った沖縄で飲食店を営んでいたときに、障害者施設でボランティアをしたことがありましたし、弟の同級生が障害者だったということもあって、全く抵抗はありませんでした。

それでも、当時はご利用者の料理を作るのが大変だった思い出があります。本州では、そうめんは夏場に食べるものですが、私の育った沖縄では、年中「そうめんチャンプルー」にして食べるんです。当時担当していた 94 歳のご利用者から、「夏でもないのに、何でそうめんなんか作るの。」と言われたのは、ほろ苦い思い出です(笑)

Q2. ご利用者を支援する上で、大切にしていることは何ですか？

言葉で「こうしてほしい。」と伝えることが難しいご利用者が多いので、「その人が何をしてほしいのか」を常に気にしています。でもどれだけ配慮しても、なかなか意に沿えないことも多いと思います。

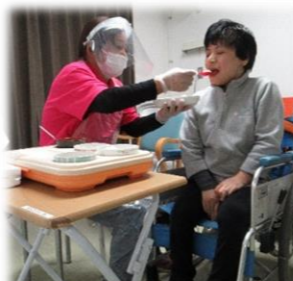
人によって要望も考え方も期待も違うけれど、どのご利用者でも、自分のできるだけのことはやって差し上げようと思っています。



Q3. 吉田さんは長年この仕事を頑張っていますが、その原動力は何ですか？

私は頑張っておりません。人を大事にするのは当たり前だから、普通のことをしているだけです。

緊急受入の相談も増えてきていますが、困っている人がいれば最善を尽くしたい。私一人の力には限界があるけれど、友愛デイの職員さんや、介護人全員で支えていきたいと思っています。



Q4. 友愛デイの良い所はどこですか？

友愛デイの職員さんが凄く協力的なところ。いろいろなことを教えてください、ご利用者の体調不良時などは、すぐに対応して下さる。とても安心して働けています。

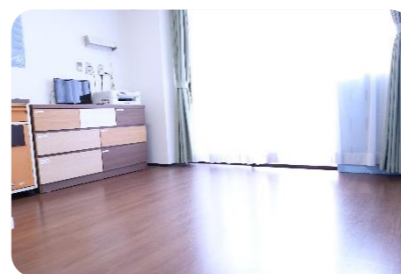
最後に一言お願いします。

ご利用者は、本当はご自宅で過ごしたいけれど、短期入所で頑張って過ごさせています。その頑張りに少しでも応えられるように、もっともっと良い支援を目指していきます。



ご利用者が、笑顔で楽しく過ごせますように...

和室タイプ



洋室タイプ



みなさまのご利用をお待ちしております

短期入所をご利用できる方

- ・世田谷区にお住まいの方
- ・医療的ケアを必要としない方
- ・65 歳未満の方(介護保険の対象ではない方)

問合せ先

Tel 03-3416-0262
E-mail yuai-short@yuai.or.jp
担当 荒井・青木